

昨年度温室効果ガス排出

13年度比5割超削減

日本鑄造 国際規格で算定 認証も

【川崎】日本鑄造は温室効果ガス（GHG）の排出・吸収量を組織単位で算定する手順の国際規格「ISO 14064-1」に基

づく計算で、2021年度に排出したGHGの量が13年度より50%以上減ったことを確認した。同じ量の鑄造品を生産する際の排出量を、13年度と比べた。また、算定結果について第三者機関の検証を受け、同規格の認証を取得した。エネルギー効率が高い溶解炉の使用頻度を高めたことなどが、排出量の削減につながった。

高い高周波炉の使用割合を高めたことや、水力発電でつくった非化石証書使用の電力を導入したことなどが寄与した。同社は製造段階で出るGHGの量が少ない製品を「低CO₂（二酸化炭素）鑄造品」として、23年度中に売り出す方針。鉄鋼製品の環境負荷を定量化する方法に関する国際規格「ISO200915」の認証を取り次第、発売する。同規格の認証取得も、国内の鑄造業界ではまだ例がないという。